

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 大 学 名 | 千葉大学              |
| 整理番号  | A-②-1             |
| 事 業 名 | 植物環境イノベーション・プログラム |

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

|   |  |
|---|--|
| (総括評価)<br><br><div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A</div>   | これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。 |
| (コメント) <p style="margin-top: 10px;">本プログラムは、千葉大学大学院園芸学研究科及び融合理工学府（旧工学研究科）が清華大学、浙江大学と延世大学校と連携し、日本をはじめとするアジア諸国で現在多くの問題を抱える大都市において、植物による環境への貢献を促すことのできる技術に関わる国際的な人材の育成を目的としている。</p> <p>プログラムは、学生や産業界の多様なニーズに応えるべく、ダブル・ディグリーやジョイント・ディグリー、スイッチ・メジャー・ダブル・ディグリー、トランスファラブル・ディグリーなど多様なコースが整備され、質保証を伴う形で実施されている。留学する学生への指導も行き届いており、外務省海外安全情報配信サービス「たびレジ」や日本エマージェンシーアシスタンス(株)の「留学生危機管理サービス（OSSMA）」への登録、傷害保険への加入の3点を平成28年度より徹底管理している。また、中韓の先進企業と連携したビジネス・ワークショップは本プログラムへの進学者獲得とプロモーションや社会への広報、普及に効果的であり、開催回数や参加人数のいずれも特筆に値する。さらに、日本人学生の派遣や留学生の受入数において当初計画を上回る成果を挙げていることや、外国語力も達成目標に十分到達しており、これまで3大学以外に8大学がプログラムに加わっている。加えて、国際化を進めるための教育・事務組織の整備として、平成28年度に国際未来教育基幹と、30年度に向けたグローバル・キャンパス推進基幹の制度づくりなど、着実に基盤を固めている点も評価できる。</p> <p>一方で、単位取得を伴う3か月以上の交流学生の実績数は非常に乏しく、特に派遣については進んでいない。農学と工学の2つの学位を取得させるための更なる工夫やロールモデル等の提示、あるいはウェブサイトの改善など、早急な対応が必要である。また、インターンシップについても希望する学生全員に対応できるよう、受入企業の負担軽減も考慮した上で、多様な形態の検討が望まれる。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p> |  |